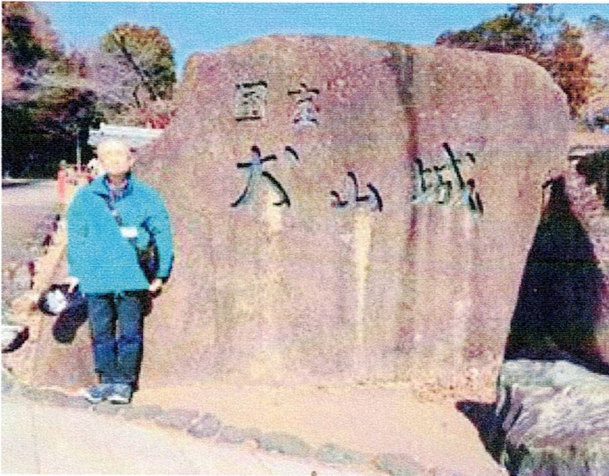


岐阜県観光ガイド連絡会 犬山市研修会に参加して

日時 2月25日(火)

行程 JR垂井発9:47→大垣9:56→JR岐阜10:08着→名鉄岐阜10:52→名鉄犬山11:30着
昼食<各自自由> 犬山城視察13:10→有楽苑14:10→送迎移動→犬山市民交流センター
15:20→15:50終了→名鉄犬山16:10→名鉄岐阜16:50→JR岐阜17:10→大垣17:37→
垂井17:50着

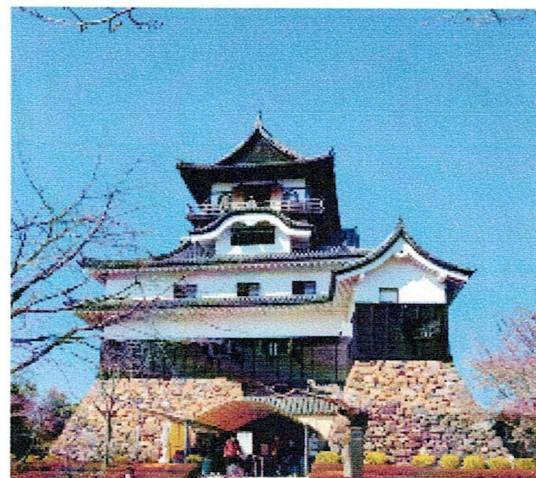
犬山城の沿革



犬山城は織田信長の叔父である織田信康が天文6年(1537)に木ノ下城を築城したと伝えられている。

こののち江戸時代にかけてはめまぐるしく入れ替わる。

天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いの際には、緒戦で羽柴秀吉方の池田恒興の急襲を受け、羽柴軍と織田信雄・徳川家康連合軍が尾張に集結するきっかけとなる。秀吉は大軍を率いてこの城に入った後、楽田城に移り、小牧山に陣をしいた徳川家康と対峙した。



た。

慶長12年(1607)、徳川家康の9男義直が尾張へ移封されると成瀬正成はその傳役となった。

まだ幼い義直に代わって、尾張藩政を委ねられていた平岩親吉が同16年に死去し、その翌年から正成は竹腰正信とともに尾張藩の付家老として政務に携わった。そして、元和3年(1617)に正成が2代将軍徳川秀忠から犬山城を拝領して以後は幕末まで、成瀬家が城主と尾張藩付家老を務めた。

明治維新後に犬山城は廃城となり、天守を除いて櫓門や門の大部分を取り壊され公園となる。

明治24年(1891)の濃尾地震で天守は大きな被害に見舞われた。同28年、愛知県から修復を条件に旧城主である成瀬氏に譲渡され、多くの市民からの義援金により修復工事がおこなわれた。その後、昭和34年(1959)の伊勢湾台風などで天守の破損が激しくなったため、全面的な解体大修理工事がおこなわれた。

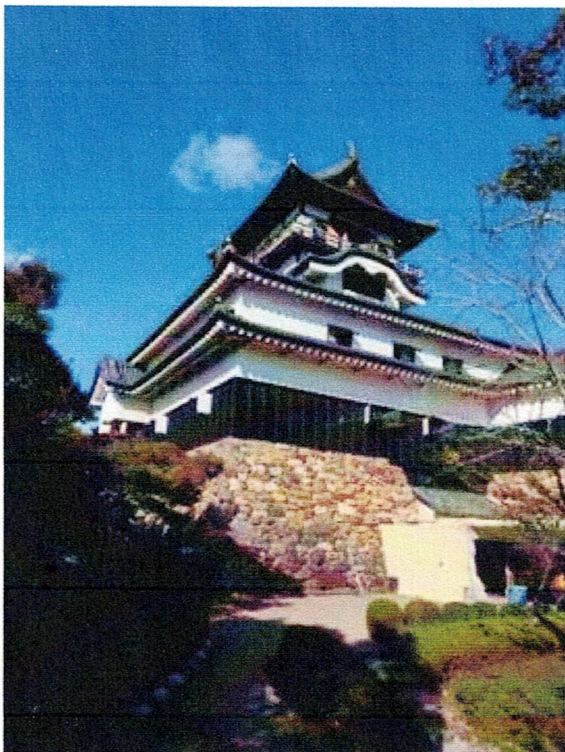
天守は昭和10年(1935)に国宝に指定され、同27年規則改正にともない再指定された。天守の創建年代はいくつかの説があるが、令和元年(2019)から同2年にかけて、年輪年代法による年代測定調査を行うとともに、建物全体の変遷過程などについて詳細に調査した結果、天守は天正13年(1585)～同18年頃にかけて、1階から4階までが一連で建設されたと見られ、現存する天守の中では最古と言われている。天守の建つ本丸を含めて、城跡は平成30年(2018)2月13日に国の史跡に指定される。

現在、犬山城天守は公益財団法人犬山城白帝文庫の所有となり、犬山市が管理をおこなっている。 <以上、「国宝犬山城」公益財団法人犬山城白帝文庫発行ガイドブックから >

犬山城の歴史

- 文明元年（一四六九）尾張上四郡守護代・織田敏弘の弟織田広近、木ノ下城（犬山城）を築城。
天文 六年（一五三七）織田信長の叔父・織田信康が現在の位置に城砦（じょうさい）を造る。
永禄 八年（一五六五）織田信長の子・勝長が城主となる。
天正 十年（一五八二）本能寺の変で勝長が戦死し、織田信雄の家臣・中川定成が城主となる。
天正十二年（一五八四）小牧・長久手合戦勃発。池田恒興が犬山城を攻略し、秀吉が入城。
文禄 四年（一五九五）石川貞清が城主となる。
慶長 五年（一六〇〇）関ヶ原合戦後、尾張国を領有した松平忠吉の重臣・小笠原吉次が入城。
慶長十二年（一六〇七）尾張藩付家老の平岩親吉が犬山城を預けられる。
元和 三年（一六一七）尾張藩付家老に任ぜられた成瀬正成に預けられる。
明治 元年（一八六八）成瀬氏、尾張藩より独立。犬山藩を立藩。
明治 二年（一八六九）版籍奉還により廃城。保存運動により破壊を免れる。
明治 四年（一八七一）廃藩置県で愛知県の所有となる。
明治二四年（一八九一）濃尾大地震で櫓や堀が倒壊、天守が半壊する。
明治二八年（一八九五）復旧・修理を条件に成瀬家に無償譲渡される。
昭和 十年（一九三五）犬山城が国宝に指定される。
平成十六年（二〇〇四）犬山城白亭文庫に所有権を移管。

略歴



つい最近まで成瀬家の個人所有の城だった犬山城。国宝天守を有し、木曾川沿いに佇む姿は、実に優美だ。唐破風や華頭窓によって古武士のようにも見える容貌を持つ天守は、一度は訪れておくと良い。犬山城は、天文年間、それまであった砦を織田信長の叔父、信康が改築し入城したと言われているが諸説あり。永禄八年（一五六五）、織田信長が尾張を統一すると、丹羽長秀や池田恒興らが在城した。その後も城主はたびたび替わるが慶長十二年（一六〇七）、尾張に入封した徳川義直の附家老となった平岩親吉が城主となった。元和三年（一六一七）には親吉に代わって附家老となった成瀬正成が入城。城主としての成瀬家が明治まで続いた。明治元年には、尾張藩から独立するかたちで、犬山藩が成立している。

明治四年の廃藩置県後は、天守を除く建物は払い下げや解体が行われた。明治二十四年に発生した濃尾大地震で、天守が半壊。その修復と保存を条件に旧藩主の成瀬家に無償譲渡され、平成十六年まで、全国的にも珍しい個人所有の城となっていた。その間、昭和十年に国宝に指定されている（昭和二十七年に再指定）。昭和三十四年の伊勢湾台風でも被害を受けたため、昭和三十六年から四年をかけて、解体修理が行われている。平成十六年、成瀬家より財団法人犬山城白帝文庫（現在は公益財団法人）に寄贈された。

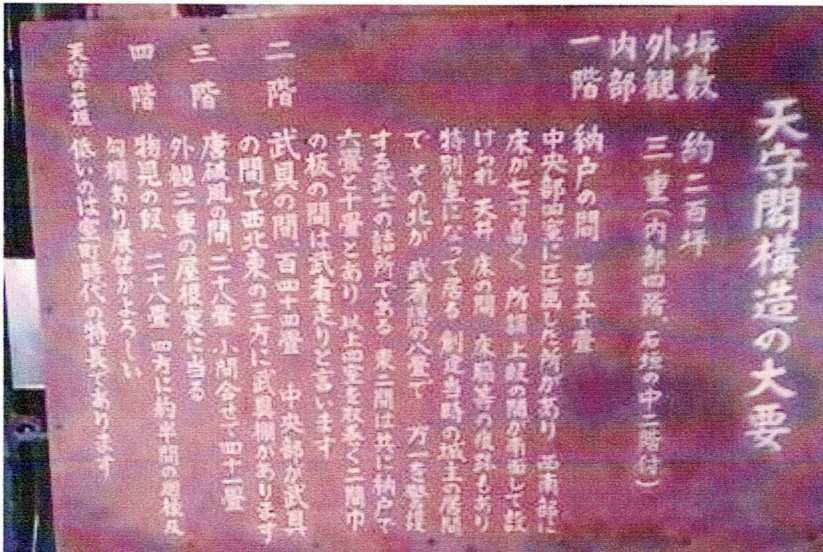
特徴と構造

野面積みの天守台に立つ三重四階で高さ十八mの天守は、現在見る姿では前記望楼型の特徴を持つが、当初は二階櫓で後年、望楼が増築されたもの。さらにその後、唐破風や高欄などが追加されている。二階櫓を建てたのが織田信康で成瀬氏入封後、望楼が造られたと言われ

ることもあるが、残された同時代史料では確認されていない。
令和三年三月、犬山城の天守は、現存天守の中で最も古いことが、名古屋工業大学大学院の年輪年代法という手法で分析調査によって明らかになった。昭和三十六年から行われた解体修理で二階までは天文六年（一五三七）頃、織田信長の叔父である信康によって建てられ、それより上階の三・四階部分はその約六十年後に築造されたという上記の説が有力だったが、天守の目に見える全ての建材を調査した結果、天正十三年（一五八五）からの三年間に伐採され一階から四階まで一度に建設されたことが分かったという。いずれにせよ、唐破風や華頭窓によって古武士のようにも見える容貌が、犬山城天守の印象をより特徴づけている。

<以上、参考文献『日本城郭大系十二』（新人物往来社）から>

城郭構造<望楼型三重四階地下二階>



木曾川南岸、標高 80m の城山に築かれた犬山城は背後を断崖に守られた典型的な後堅固の城である。本丸、杉の丸、樅の丸、桐の丸、松の丸を南方に階段状に連ねて配置してあった。天守の他に現存する建物は無いが、石垣や空堀が残されている。



唐破風

破風のうち、中央が弓なり状にせりあがっているものをいう。

付櫓

天守の入り口が敵兵に破られそうな時、側面から攻撃を加えて防備する。

石落とし

石垣より突出しており、石を落として石垣からの侵入者を防いだ。



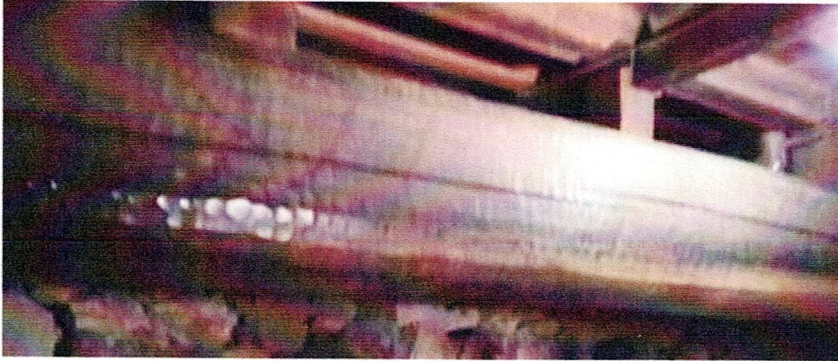
魔除け

亀の甲羅に桃がのった形をした魔よけ。

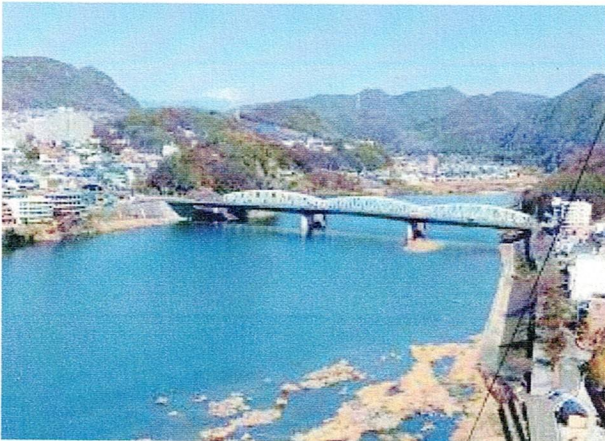
注：写真は犬山城公式サイトから引用

地下一、二階（穴倉）＜入口＞

天守の出入り口があり、天守を支える石垣や太い梁をみることができる。入口を通り地下一階から一階への道は九十度に折れ曲がり、侵入を防ぐ工夫がされている。

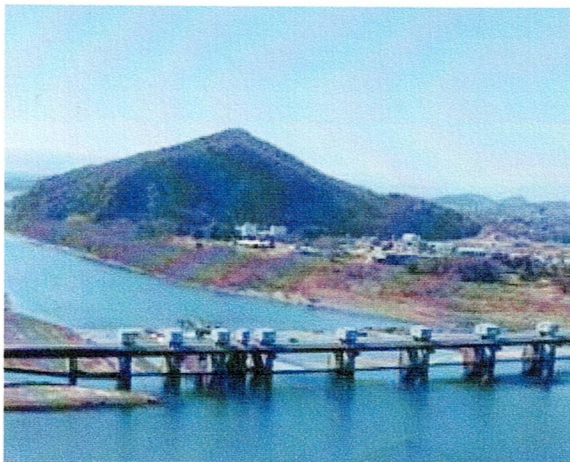


天守からの眺望



犬山橋（ツインブリッジ）

木曾川を挟んで対岸は各務原市である。
白く見える山は御在所岳。

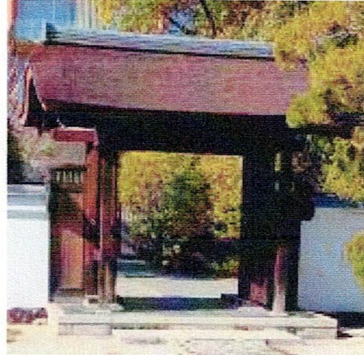


写真で見える山は伊木山
水流を調節する水門と思われる。

岩栖門(いわすもん)



文明年間（1469～1486）に細川満元が京都新町頭に建立した武家屋敷岩栖院の唐門として伝えられている。屋根は桧皮葺で構造は船底天井、室町様式初期の貴重な建造物です。写真は岩栖門の入り口と裏



日本庭園 有楽苑

犬山城の東にある「日本庭園 有楽苑」は、昭和を代表する建築家、堀口捨己氏（ほりぐちすてみ）の監修によって築造された日本庭園です。

苑内には、国宝茶室「如庵」、重要文化財「旧正伝院書院」、古図により復元された「元庵」、茶会のために建てられた「弘庵」などがあり、静かなたたずまいをみせています。如庵は織田信長の弟で、茶の湯の創世期に尾張の国が生んだ大茶匠・織田有楽斎（うらくさい）が京都の建仁寺に元和4年（1618）こと創建した茶室で、昭和11年（1936）に国宝の指定をうけた茶道文化史上貴重な遺構です。京都山崎妙喜庵内の待庵、大徳寺龍光院内の密庵とともに、現存する国宝茶席三名席の1つです。

国宝茶室 如庵

柿葺（こけらぶき）の端正な外観を示す。この茶室の内部は二畳半台目で床脇にウロコ板を入れて斜めの壁を作っているところから「筋違いの囲」と言われている。古歴を腰貼りにした歴貼り、竹を詰め打ちにした有楽窓、躰口（ランクチ）の位置等随所に独創的な工夫がこらされている。

国宝茶席三名席 1 京都山崎妙喜庵の待庵 2 大徳寺龍光院の密庵 3 京都建仁寺正伝院にかつてあり、現在は犬山城下有楽苑にある如庵

重要文化財「旧正伝院書院」

元和4年（1618）如庵に隣接して建てられた有楽斎の隠居所で入母屋造りの温和な外観を示し、南側の茶室は茶座敷にふさわしい構えとなっている。内部に残る長谷川等伯・狩野山雪などの襖絵は美術史上貴重な史料（普段は飾っていない）。

*** 小堀遠州は戦国時代から江戸時代の武将で、伏見奉行を務めると共に、作事奉行、大名茶人として活躍した人物です。彼が関わったとされる茶室などは現在重要文化財などに指定されている。

最後に、有楽苑の入苑料は1200円で、高く感じたことと、現存する天守の中では最古と言われたことが印象に残っています。